

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	京都大学	整理番号	A01
プログラム名称	京都大学大学院思修館		
プログラム責任者	北野 正雄	プログラムコーディネーター	川井 秀一

(評価決定後公表)

(総括評価)

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、本プログラムは、「生存知の構造化と公共化」を対象とする総合学術である「総合生存学」を確立、実践しようとするプログラムであると同時に、教育プロセスも非常にユニークなものであり、大学院教育の一つのあり方を示すものとして期待されているが、基盤となるべき「総合生存学」の定義、概念が抽象的であり、既存研究科との関係整理も含めて大学執行部並びにプログラム担当者による更なる検討・議論が不可欠である。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、各界のリーダーを講師として招いて実施する「熟議（講師による講義、問答、ディベート演習）」などをきっかけとして、学生同士の相互啓発によるグローバルな課題についての研鑽が盛んに行われ、学生がグローバルリーダーとして着実に成長しており、今後の活躍が期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、専門的知識の習得に加え、「八思（総合学術基盤講義）」の教育などにより総合的な知を学び俯瞰力を培い、複合的社会課題解決能力を育成しようとするきめ細かな教育プログラムが学生各自に対して用意されている。また、学生同士が緊密な人間関係を築き、互いに切磋琢磨できる合宿型研修施設を備えた寮制度などリーダー育成のための環境が整えられ、大学の支援体制が充実していることなど、多くの点で高く評価できる。一方、グローバルなコミュニケーション能力涵養や国際性の向上を図るための外国人担当教員の増員等、早急な対応が求められる。

優秀な学生の獲得については、学生の専門性は幅広い分野に渡っているが、多様な背景を持つ優秀な学生が切磋琢磨しあう環境という意味からも応募者数、及び留学生数の増加が課題である。女性の学生数についても更なる増加が望まれる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、明確な履修要件が定められ、厳格な進級資格試験が行われていることは評価できる。一方、「総合生存学」の学問的、実践的アチーブメントの評価方法の確立が不明瞭であるため、まず学理を定め、博士課程として相応しい明確な評価基準、審査方法が確立される必要がある。

事業の定着・発展については、全研究科の協力を得てプログラムが運営されており、大学執行部の積極的関与も約束されている。今後は、本プログラムを新しい大学院教育のモデルとして確立し、大学全体の教育改革に結び付けていく更なる努力が求められる。